

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600458		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘 1F		
所在地	帯広市緑ヶ丘8丁目1番24		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0194600458-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年3月27日に開設したグループホームです。周辺には、公共施設が点在し、入居者様と散策や見学することもできます。ホームのそばでは、エゾリスが走り回る姿を見ることがあります。入居者様と、穏やかな時間を過ごしていただく、空間づくりを目指しております。若い職員が多く在籍し、上級資格取得に向けた、資格取得制度を利用し、日々スキルアップしています。開設1年目を、もうすぐ迎えますが、改善すべき問題点もまだ多数あり、管理者、職員が協同し、問題解決に向けて取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘」は、近くに帯広動物園や美術館、緑ヶ丘公園などがある、自然環境に恵まれた閑静な住宅地に立地している開設1年目の事業所である。建物内は木の温もりを活かした落ち着いた雰囲気、トイレや浴室はプライバシーに配慮して居間から見えない場所に設置している。壁には、利用者の写真や職員の切り絵がさりげなく飾られており家庭的な温かさが感じられる。地域に密着した事業所を目指し、今年度は管理者が積極的に地域行事に参加して交流を深めている。ヒップホップダンスのボランティア訪問や保育園児の来訪など、開設当初から外部の方々と交流する機会も多い。管理者は、職員の提案や意見に日頃から耳を傾けて働きやすい職場環境の整備に努めている。法人研修やミーティングなどで勉強会を行いながら職員の資質向上に力を入れており、今回の自己評価にも全職員で取り組んでいる。それぞれの利用者の思いを把握しながら、本人の好きなことや好きなことを継続して行えるように全職員で常にコミュニケーションを図りながら一人ひとりに応じた細やかなケアを行っている。排泄の自立に向けた支援や個別の外出などにも柔軟に対応している。来訪時や広報紙で本人の様子を詳しく報告することで、家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入口玄関やリビングなどに、ホームの理念を掲示しております。この理念は、ホーム開設前に、職員で検討を重ねて作成した理念であり、思い入れが強いです。	「穏やかで快適な生活を目指します」という理念の中に、「地域との絆を深めます」という地域密着型サービスの意義を踏まえた項目を掲げている。今後も定期的に振り返りを行いながら、職員間で更に理念を共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新規開設後に、各フロア管理者1名、町内会に加入しております。町内会の行事などに、出来る限りの範囲で参加し、町内会会員の方々との交流を深めています	今年度は、管理者が町内会の花見や忘年会、川の清掃などに参加して積極的に地域交流に努めている。開設時の内覧会には近隣住民が訪れている。ヒップホップダンスのボランティアが来訪したり、保育園児が訪れて歌や踊りを披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・開設後より、地域の方々より、認知症についての相談を受けた時などには、わかりやすく説明するように努めております。ホーム内に地域交流室を設けているが、まだ地域の方々に活用される空間にはなっていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回、運営推進会議を開催しております。町内会長様、民生委員様、地域包括の担当者様、ご家族様に参加して頂き、各フロアの様子や、職員の現況等を報告しております。頂いたご質問には、耳を傾け、日々のケアの向上に努めて取り組んでいます。	家族も毎回数名参加し、事業所からの報告や参加者から出た意見、質問などに沿って活発に意見交換が行われている。地域包括支援センター職員から感染症や認知症の情報提供を受けている。会議案内と議事録は全家族に送付している。	会議案内にテーマを記入して送付し、参加できない家族の意見も事前に聞き取りながら会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・自治体からのメール等は常にチェックし、通達には必ず目を通しています。介護保険課、保護課には月に一度は、訪れる機会があり、良好な関係を築けるようにしています	市役所主催の介護計画意見交換会に管理者が参加したり、書類の提出や介護認定の更新手続きなどで訪問している。保護課にタクシー利用について確認したり、個別に応じた相談なども行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束を行わないケアを目指しております。日中帯で職員の配置上、見守りが手薄なときには、短時間施錠することもあるが、入居者が外出しようとされるときには、開錠し、同行するようにしています。	法人研修に参加したり、ユニット会議で事例に沿って適切な対応について学びを深めている。拘束につながるような不適切な言葉がけについて、申し送りやミーティングで確認している。身体拘束廃止マニュアルに、禁止の対象となる具体的な行為11項目を追加する意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待が起こりうる可能性があることを自覚し、虐待や不適切なケアを行わないようにを内部研修、外部研修に参加し知識を深めています。当日参加できなかった職員には、後日、資料を配布しております。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護に関する制度の理解について、職員が理解をしているとは言い難い状況であり、勉強する機会を設けていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は管理者が主に対応しています。利用者とは、契約前に面談し、利用者やご家族が抱えている不安を尋ね、入居されてから安心して暮らしていただけるように、説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の要望などは、ご家族が来設された時などに、伝えております。またご家族からの要望に対し、ホームで出来る対応か検討し、改善できる部分は即対応できるようにしています。	来訪時や運営推進会議の機会に利用者の様子を伝えながら、意見や要望などが言いやすい雰囲気になるように配慮している。家族からの意見や要望は、連絡ノートに記載して情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議、申し送り時などで、職員の意見を聞く機会を設けています。改める事柄があれば、申し送りノートに記載し、職員に周知しています。法人としての対応が必要な場合は、管理者から本社へ報告しています。	管理者は、日頃から各職員と話しをする機会を作り、意見や提案、悩み事などを聞き取っている。職員からの提案を受けて会議で検討し、休憩時間帯を変更している。何か課題があればその都度意見交換をして、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の経験年数や、技量に配慮し、楽しく仕事ができる環境を整えたいと思っているが、管理者業務が忙しく、個人面談を実施し、職員の思いを汲み取る機会を、まだつくれていません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職種や経験に応じての年間研修計画があります。法人内で資格取得制度があり、向上心のある職員には、スキルアップのため制度を利用するよう、促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・十勝GH協議会に入会し、研修等に参加しています。交流を深めて、情報交換できる関係の構築に努めています。同一法人の管理者とは、月に一度月例会があり、その場でも情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前には、面談し、ご本人が抱えている不安を解消し、ホームでの生活を安心して過ごしていただけるように、関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約前には、ご家族様の意向や思いに耳を傾けるよう努めております。入居者様が安心して生活が送れるよう、ホームでは、どの様なことができるかを、説明する時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前には、新入居者様の情報を周知しております。その中で、職員の意見を聴く機会を設け、どの様な支援ができるかを、検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様のご自身で出来ることと、出来ないことを把握して、入居者様らしい生活が過ごせられるように、職員同士で情報共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時など、入居者様の近況を報告しております。また、入居者様のご家族の方々の健康状態も尋ねることもあり、ホームとご家族様で入居者様を共に支える関係性の継続を目指しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者様の友人などの面会が、時々あります。居室等で会話を楽しんで頂けるように、配慮しております。遅い時間での面会も他入居者様の迷惑にならないに配慮しております。	近所に住んでいた方と一緒に定期的にカラオケに出かけたり、宗教関係の集会に参加している利用者もいる。本人の希望に応じて、美術館見学や誕生日に豚丼や好きな物を食べに出かけるなど個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者様同士で、会話を楽しめるように、配慮しています。トラブルになりそうな場合には、職員が介入し回避しています。各入居者様が孤立しないよう、レク活動も随時行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・開設後から、まだサービスの利用を終了された方が、まだ、ありません。今後そのような場合には、適切な対応を心がけます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご自身の思いを、伝えられる入居者様が多く、その思いをできるだけ実現できるように、支援しております。思いを伝えることが困難な入居者様には、本人本位を優先し、こちらの思い込みで介護を行わないようにしています。	普段の会話や表情、行動の流れなどから把握している。本人との関わりから把握が難しい時は、家族に確認しながら本人の意向の把握に努めている。センター方式(B-3)シートに随時追記しながら情報を蓄積していく意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居者様との会話を通じて、生活歴の把握に努めております。また、ご家族様より、慣れ親しんだ習慣を尋ねて、より良いサービスが提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者一人ひとりの介護記録を記入する際には、入居者様の状態や、発言等を記載しています。今後のケアに生かせるような、記録の記入を心がけております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々のケアの中で感じたことを、ミーティングの際に検討しております。チームとしてケアの統一を図り、互いに情報共有ができるように議事録を作成し、閲覧できるように、しています。	家族や本人の意向を聞き取り、担当職員を中心に全職員でモニタリングを行いながら3か月毎に介護計画を作成している。モニタリング期間や書式などはユニット毎にばらつきがあり、今後の課題となっている。	介護計画の見直しの流れや書式を統一するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録の書き方が職員間で開きがあり、細かく記入できるように研修を行っていきます。ケアプランに生かされる記録の書き方を工夫します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者様の要望に対しては、一日の予定にとらわれず柔軟に対応しています。また、ご家族様からの要望にも、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の活用方法が、現状では、見つかっておりません。地域の特性を把握し、ボランティアの利用も含め、関係機関と協働していきたいと思えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関の往診が月2回あり、その際には、体調の変化などを伝えています。入居者様が伝えきれていない体調の変化は、こちらから補足して伝えています。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診も殆ど事業所に対応しているが、家族のみで受診する時は口頭や書面で健康状態を伝えている。受診記録は、今後個別に分かりやすく整理したいと考えている。	

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・往診は月に2回。訪問看護も月2回、協力医療機関の帯広記念病院より診察を受けています。職員は日々のケアの中で、入居者の体調の変化を観察し、往診等で相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者様が入院された際には、週に1～2回は、病院に足を運び、様子をうかがっています。医療機関と連携し、早期に退院が可能かどうか、協議しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・介護度の軽い入居者様が多いため、重度化した場合の取り組みには至っていません。重度化した場合には、どこまでホームでの生活を継続できるかを、本人・ご家族の意向を確認し、医療機関と連携していくよう努めます。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合い、継続的な医療行為が伴わない場合は、希望に応じて看取り対応も可能であることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・入居者の急変時には、管理者へ報告するよう指導しております。災害時には職員の緊急連絡網を作成しており、ホームに駆けつける体制を整えていますが、まだ未実施。災害対応の訓練を計画しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・7月、1月に避難訓練を実施しています。日中帯、夜間帯で火災が発生した想定での訓練を行っています。今後は、水害・地震発生を想定した防災訓練も実施したいと検討しています。	年間2回、消防署と防災会社の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。防災マニュアルを作成して災害備蓄品も整備しているが、地域との協力体制は今後の課題となっている。	地域との協力体制を整え、地域住民参加の下に避難訓練を実施するよう期待したい。また、地震などの災害を想定して、危険箇所の確認や具体的な場面での対応について職員間で話し合うよう期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として、尊敬し、失礼がないような接し方を心掛けています。	開設時や法人の研修で接遇を学び、丁寧な声かけで対応している。申し送りは利用者から離れた場所で行い、個人情報適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者様から発せられることばに耳を傾けて、思いを受け止めて、些細な事柄でも自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事時間は決まっているが、入居者様の都合を優先し、入居者様に合わせた食事を提供しております。入居者様が望んだ活動が行えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問理容サービスを入居者様全員受けられております。パーマをかけたり、髪染めの施術を受けている入居者もいらっしゃいます。身だしなみは、自立されている入居者が多く、おしゃれを楽しまれております。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・楽しく食事を召し上がって頂けるように、食事の席や、職員の配置に気を配っています。食事時には、好物や好きな味付けを尋ねたりしています。調理、お盆拭きの軽作業を、お手伝いして頂けてます。	誕生日には献立を中止して好みの食事や外食で料理を選んで貰うこともある。パン食や屋外でユニット合同の焼き肉を楽しんでいる。利用者は調理や後片付けに参加し、お好み焼きやクッキーなどのおやつを職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分摂取量の記録を体調の記録に記入しております。水分摂取量が低下している入居者様には、随時水分摂取できるよう、心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・年に1度、無料の歯科検診を受けられています。口腔ケアが難しい入居者様の中には、個別で歯科医師、歯科衛生士の指導、助言を受けられています。また、職員にも指導、助言を頂き、ケアに活かしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来るだけトイレで排泄ができるように、支援しています。排泄のタイミングを検討し、羞恥心に配慮した介助を心掛けています。	介助が必要な方の排泄を記録し、日中はトイレでの排泄を基本に、2人介助で行うこともある。声かけで多くの方が自力で排泄ができ、布パンツで過ごすことが多い。入居時の紙パンツから徐々に布に替え、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防のために、オリゴ糖を水分に溶かして、提供しています。水分を多く摂取できるように、工夫し、併せて、ラジオ体操等の運動の参加を呼び掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴日を各入居者様で固定しています。入浴日を認識されている入居者様が多く、入浴を楽しまれております。体調不良時には、清拭を実施し、清潔の保持に、努めています。	毎日入れる態勢で、午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。全員が湯船に浸かり、2人介助で行うこともある。体調等ににあわせて日にちをずらしたり、同性介助などの意向を聞きながら気持ちよく入浴が楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・1日の過ごし方は入居者様を優先しています。あまり休息が取れていないときには、休息して頂いています。それぞれの生活リズムに応じた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・事業所の服薬マニュアルがあり、常にダブルチェックで確認する体制を整えていますが、誤薬、落薬の事故も起きており、薬を飲み込み終えるまでの確認が疎かになっており、都度の改善を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事等は、積極的にお手伝いして頂ける入居者様が多いです。お手伝い頂いた後には、感謝の言葉を掛けるようにしています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・知人と外出される入居者様がいらっしゃいます。帰設後には、外出時の様子を尋ねています。夏季には散歩を楽しまれていた入居者もいらっしゃるが、冬季は道路状況が悪く、外出には至っていません。	周囲や近くの公園を散歩したり、玄関先で外気に触れている。個別の趣味や関心ごとに対応し、年間を通して出かける方もいる。周辺の公的な施設を活用し、美術館、動物園、緑ヶ丘公園での花見や紅葉見学、スーパーでの買い物、外食などで外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額の金銭を持ち込まれている入居者様が数名いらっしゃいます。入居者様自身で買い物に出掛けられることはなく、金銭管理できています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を所有している入居者様もいる。その方は、遠くにお住まいの親類の方と定期的に連絡を取り合っています。ご家族に連絡して欲しいと訴える入居者様には、要件を尋ね、必要に応じ、通話できるような体制にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレは、一目でわかるよう、表示しています。四季を感じられるよう、花や飾りつけを施し、明るく、清潔感がある空間づくりをめざしています。	新築の屋内は、木の温もりと床暖房で居心地が良い。高台に建っているため、居間からは近所や遠くの家並みが見渡せる。トイレは居間や他者から見えない場所にあり、プライバシーが保たれている。壁には行事の写真や職員制作の切り絵が品よく飾っており、家庭的で温かな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者様は、リビングにて過ごされている方が多いです。ご自身のお話をされたり、職員との会話を楽しまれております。会話を楽しまれず、居室で過ごされる入居者様にも配慮し、孤立しないよう、心掛けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内には、入居者様が以前住まわれていた家具等を、持ち込まれている方々が多いです。殺風景にならないよう、ご家族が写真等を飾られています。	居室にクローゼットや温湿度計、介護用ベッドを用意し状態に合わせて高さを調整している。馴染みの家具類、仏壇、テレビ、縫いぐるみなどが持ち込まれており、壁の造りを活かして家具類の上に、家族の写真や小物類、置物が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・台所には、柵を設置しているが、開放しており、入居者様が台所に自由に出入り、調理や食器洗い等の、お手伝いして頂ける環境になっています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600458		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘 2F		
所在地	帯広市緑ヶ丘8丁目1番24		
自己評価作成日	平成30年1月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600458-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロア内の装飾を季節によって変更し、四季を感じて頂けるよう工夫しています。毎日を楽しく、穏やかに生活できるよう楽しみ事への支援に努めています。ホーム内の行事の充実と外出行事を増やし、個別にも希望を伺いながら支援しています。さまざまな人達と交流できる機会を多く持ちたいと考え、保育園児との交流や動物とのふれあいも大切にし1人1人の安心できる「家」を目指し取り組んでいます。認知症が進行しても、自身の思いを自由に表現でき自身の事は自身で決定できるお手伝いを日常的にさせて頂き充実した毎日を過ごして頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
		○	4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（2F）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員全員で話し合い理念を策定し掲示しています。常に穏やかで快適な生活ができるよう全職員がケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、可能な限り行事等の参加に努めています。散歩に出かけた際には近隣の方々に挨拶をしたり会話を持つよう心がけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて町内会のご意見や民生委員の方から質問や相談を受ける事があります。地域包括の方にも協力をお願いし認知症の方への理解や支援にも働きかけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し入居者様の状況や日常生活の様子、行事の取り組みや職員の状況等を報告しご意見を頂きサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの情報は主にメール等で送られその都度確認しています。介護保険関連の事には直接出向き相談したり状況を伝えたりし協力関係を構築できるよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況によっては、ご家族にもご理解頂き一時的に戸口の施錠をすることありますが、特に日中はできるだけ施錠せず開放し行動抑制をしない等の実践をしています。又、定期的に研修に参加したり勉強会を行うようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議の中でも取り上げるようにし職員同士の話し合いの場を設け、意識と知識の向上に努めています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持っており、成年後見人制度の活用の必要性を話し合い活用できる支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約事項を説明し疑問や不安等がないか尋ね理解と納得をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご様子や変化等は、面会に来られた時や毎月のお便りでその都度お伝えし、ご意見やご要望については早期にミーティング等で検討し実施できるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、内容により、本社に相談しています。定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設け1人1人の思いの反映に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握しその中で得意な事を実践できる環境を整えています。資格を所持していない職員には資格支援制度を設け、意欲の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や資格に応じ、内・外の研修を受ける機会を設けています。毎月の会議の中でも対応の仕方や緊急時のシュミレーション等を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属しており、研修会に参加し懇親会がある場合には職員にも多く参加を呼びかけ、他GHとの交流の機会を持ち情報交換をする等サービスの向上につながるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際、必ずご本人とお話させて頂き不安な事はないか、入居後はどんな生活をしたいのかを確認し安心して入居して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の際に困っている事、心配な事をお話して頂けるよう努め入居後も常に状況をお伝えし安心して頂けるよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で得た情報を事前に全職員が共有できるよう書類を作成しています。入居後も不安なく、その人らしく生活していけるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身でできる事とできない事を見極め、毎日の生活の中でさりげなく支え共に生活している者として信頼関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活のご様子をその都度お伝えしながら、現状を理解して頂き、これまでの家族間の関係を保て、共に支えていけるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から続けていた楽しみ事等ご家族にも協力して頂きながら継続をしたり、行きつけのお店等も利用していけるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し、職員が間に入りながら対話を楽しんだり、一緒にホーム内の作業をする事で支えあえるような支援が継続できるよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も新しい居住場所(病院等)へ訪問する等、情報交換を行い支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にこれまでの生活状況を把握し、入居後も本人やご家族に伺いながら意向の把握に努め、職員全員で共有できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や関係者の方々に細かく情報提供して頂き、これまでの生活環境やなじみの暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や生活状況を細かく記録し、できる事は自身で行えるよう状態を把握し日々の変化を共有できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族に要望等を伺い、カンファレンスを行っています。その中から介護計画に反映でき、その人らしく1人1人に合ったケアが行えるよう作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な生活の様子や体調の変化、ケアの実践や結果については、個別の記録に記載し送りノート等も活用しながら、情報共有を行い介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応し、要望においても可能な限り対応できるよう努めています。共有スペースでの決まり事は、極力なくし柔軟な対応ができるよう心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設からの慰問や保育園児との交流の機会を持ち、様々な方々と接し楽しみ事を増やせるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診や訪問看護を全員受けています。かかりつけ医の通院も継続できるよう支援し、緊急時等は、協力医療機関以外への通院対応も同行し対応しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回健康相談として、協力医療機関の看護師が来訪。その際日常生活の様子や体調の変化等を報告相談しており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの状況をお伝えし看護師や医師にも経過や状態を伺い、情報交換しています。退院しても安心して生活できるよう日頃から病院関係者とも連携を図り、関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ホームで対応可能な範囲を説明し、医療行為が必要となるとホームでの対応ができなくなる事の説明も十分行い、ご家族にも理解と協力を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救命救急講習の緊急マニュアルの周知及び救命救急講習の受講等、緊急時の対応が的確に行えるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定した訓練を実施し、無事に避難できるよう努めています。今後は、水害を想定した訓練も必要であると感じています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの場所等がわからない方がおられ、その都度声かけや助言をしているが頻回である為、雑な対応とならないよう常に心がけて対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で些細な事でも希望を伺ったり、困難な場合は、どれかを選んで頂けるような場面を作ったりしながらできるだけ自身で決められるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前から続けていたカラオケ等の楽しみ事を継続したり、1人1人の生活習慣を大切にしながらできるだけ希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれにもお手伝いが必要な場合も多く、好みを把握し、その人らしい身だしなみとおしゃれができるよう努めています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	体調面に考慮し量や盛り付け方等にも工夫し、行事等の時は、季節を感じられ好みにできるだけ添うようにしています。盛り付けや片づけは、一緒に行っていますが行える方が少ないのが現状です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士が作成したものを元に調理しています。食べやすいよう一口大にカットしたり、量も考慮し提供しています。水分量も確保できるよう好みも取り入れるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを促しその方の状態に応じて介助しています。異常が見られる時には、早めに協力医療機関の歯科往診をお願いするようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄状態を把握し、多動となったり等の状況に応じ、個別の対応を行い失敗の軽減と自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を朝食前に提供し、毎日水分も定期的に提供し摂取して頂いています。体操や廊下運動等の運動も体調をみながら勧めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧が午後から高くなる方には、午前に入浴して頂いたり、体調や気分に合わせて入浴して頂いており入浴中も対話を持ちながら入浴を楽しめる様にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床後起きてこられる方もおり、職員と一緒に過ごす事で安心できる方には、時間を共有したり状況や習慣に合わせ落ちつく場所で安心して休める様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬をはじめ、薬の変更や外用薬の対応、用法用量の理解と副作用について周知状態の変化を共有し担当医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやもやしの髭とり、食器拭き等日常生活においての作業やパズルや書き取り ドミノ等のレクリエーション活動を行い、その方の楽しめる内容を検討し役割や楽しみ、気分転換ができるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伺いながらできるだけ戸外に出かけられるよう努めていますが、冬場は少なくなってしまいます。普段行かない場所には、ご家族にご協力をお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が現金管理は困難であり、購入はご家族対応又は、ホームで立替で対応していますが1名のみ持っていることで安心されている為、ご家族同意の元所持され、時々買い物等されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に介助にて電話をしたり、手紙が来た時には返事を書く等の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間において不快や混乱を招く事のないよう特に音、光、温度に対し臨機応変に状況に見合うよう配慮しています。季節を感じて頂けるよう、その季節らしい飾り物を飾る等の工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時には、居室で過ごして頂いたり、廊下の椅子等で休んで頂いたりしています。気の合う方々で楽しく過ごせるようソファや食事時の席等を配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながらなじみの物や好みの物を置き、心地良く過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の視点に合わせ「できる事」「わかる事」を活かし、できるだけ自立し安全で安心な生活が送れるように工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

作成日：平成 30年 2月 8日

市町村受理日：平成 30年 2月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議において、議題が事前に決定していないことが多い。	・テーマを決めて活発な意見交換ができるような会議を行う。	・会議の案内にテーマを記入し事前に検討して頂けるようにする。 ・参加できない方々にも意見を伺い、会議に活かせるようにしていきたい。	3か月
2	26	モニタリング期間や書式等の統一ができていない面がある。	・モニタリングと書式の統一ができる。	・介護計画においての一連の流れを確認し合い、見直しの流れや書式の統一化を図る。	3か月
3	35	防災訓練の実施はしているが、地域との協力体制は整っていない。	・地域との協力体制の確立。	・防災訓練の参加を近隣住民に依頼し、利用者の見守りや実際に災害等が起こった時の連携体制を整える。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。